

「自己責任」って非難の言葉なの？

馬奈木 昭雄

社会的に大きな問題が起った時、しばしば「自己責任」という言葉がとびかいます。たとえば若者が就職できない、結婚できない、子供を生んで育てることができない、という状況に対し、「それは本人の努力が足りないせいだ。人間は努力すればかならず夢をかなえることができる、できないのは自分の努力がたりない自己責任だ」。もちろん、紛争が生じている外国にボランティアや、ジャーナリストが出かけて行って、そこで人質になった際にも「危険だと警告されていたのにそれを承知のうえであえて行ってみんなに迷惑をかけているのが悪い、自己責任だ」という調子の発言がとびかいました。

現在の法制度（近代市民法の考え方）では、まさに「自己責任」が大原則です。何故私達はいろいろな自分の行為について、責任を負うことになっているのでしょうか。自分の行為によって他の人に被害を与えれば、当然のこととしてその損害賠償をしなければなりませんし、場合によっては刑事責任を問われることにもなります。一方、たとえばもうけるつもりで株を買ってみたが、値下りして逆に損が出てしまった。という場合でも、まさに「自己責任」でだれに文句をいうこともできません。

「自己責任」が考え方の大原則である理由は、明治維新（外国では市民革命）によって成立した現在の社会（近代市民社会）においては、自由で独立した市民一人一人の自由な意思によってすべての物事が決定される、という前提にたっているからだと思います。だれに強制されたわけでもなく自分の自由な意思によって自分の行動を決定し、行動した以上、その結果について責任を負うのは当然だということだと思います。しかし、これはあくまでも「幻想」の理念形にすぎません。現実には自分の行動を自分の自由な意思にもとづいて自由に行うなど、現実社会のなかではとうてい実行できません。弱い一人一人の市民はさまざまな社会的制約によってがんじがらめになっています。しかも他方では、あの原発事故をひき起した東京電力は、本当の意味で「自己責任」を負うべき立場であり、全ての被害者の損害賠償はもちろんのこと、汚染された国土の回復など一切の現状回復義務を、東電が自らはたすべきなのです。しかしここでは「東電の自己責任でやれ」という声はかき消されて、「国がのりだして解決する」ということになっています。今問題の汚染水の処理も東電は自らでは解決はできず、国がのり出してきました。

弱い者に対しては「自己責任」という言葉で、国、行政、大企業の責任をごまかし責任をはたす義務からのがれる一方、強い者に対しては本当の意味で「自己責任」をとらせるべきことを沈黙してごまかすということが堂々で行なわれ

ているように思います。この不正義、不条理な状況に対し、本当の「自己責任」を国、行政、大企業など強者にとらせるようたたかうことが必要だと考えます。